

フルブライト奨学金研究者 チャド・ディール氏来学

チャド・ディール氏は米国モンタナ州立大学を卒業後、学術活動を通じ相手国との相互理解を深めるために設立されたフルブライト奨学金により、9月から1年間教育学部の外国人客員研究員として、高橋眞司教授のもとで平和と多文化共生に関する教育研究センターと連携をとりながら、「広島と長崎における原爆観の相違とその形成過程の研究」を行います。

また、氏は長崎大学で学ぶにあたっての印象や研究について、次のように述べています。

〈長崎の大学で学んで…〉



私はアメリカのモンタナ州から参りました。今年の5月にモンタナ州立大学を卒業して今はフルブライト（Fulbright）奨学金を貰いながら教育学部の外国人客員研究員として、長崎と広島の前爆投下の様々な解釈を研究しております。研究をしながら長崎を楽しんでおります。今年の9月の下旬に長崎に参ったばかりなのに、もう気に入りました。市民はみんな優しいし、外国人を温かく歓迎して下さる人々だと思います。

今は、長崎大学の国際交流会館に住んでいます。文化が違ふせいかわかりませんが、大学の寮とか学部のビルとか教室とか研究室とかがボロくて吃驚しました。アメリカ人として監獄みたいです。綺麗じゃないし、建てられた時から1回も改新、改善、改修されたことないように見えます。それを見ると悲しくなります。それは自分が可哀想だからだけじゃなくて、日本の未来を教育している所がそんなに居心地が悪くて、日本の大学の学生、院生、教授、みんなが政府に大事にしてもらってなくて可哀想ですから。日本では若い未来を教育するのがそんなに無視されていることに吃驚しています。誰かが日本の政府にそんなにむごく扱うのはもう勘弁して欲しいと言うべきだと思います。私が卒業したモンタナ州立大学と比べたら、全然違います。モンタナ州立大学は100年前以上に建てられましたけど、まだとっても綺麗な大学です。寮、ビル、教室などが全部よく改修されたりしていますからこそ、居心地がいい所です。まあ、私にとって「住めば都」の通り、寮はもう快適な所になりました。クモが一杯いますけど。日本の学校の状態は仕方ないと思いますけど、アメリカ人として吃驚することです。それでも、長崎大学は大好きな所になりました。日本の政府よ、教育を大事にしてください！

来年の8月まで居ります。それまでいろいろ挑戦して、勉強を頑張って、いい経験になります様にしたいと思います。疑いなく、私の日本に関係ある経験は一生価値があるものです。日本に就いての知識を私のようにアメリカの田舎の町の出身の人たちに伝え教えます。そして、みんなが自分自身で世界を知らないという障害を越えることができるのでしょうか。ですから、大学院に行って日本史の博士を狙おうと思っています。幾つかの職業の目標も持っています。海外で働くこと、翻訳者になること、大学の教授になることなどです。頑張ります。宜しくお願い致します。

（教育学部）